

＜書 評＞

安藤徳彦・大橋正洋 著
石堂哲郎・木下 博

脊髄損傷マニュアル リハビリテーション・マネジメント

間嶋 満（筑波大学）

本書を企画された安藤徳彦・大橋正洋・石堂哲郎の三先生が臨床・研究の場としておられる神奈川県総合リハビリテーションセンターは、わが国におけるリハビリテーションのメッカの1つであり、ことに脊髄損傷に関する研究業績は枚挙にいとまがない。本書は、三先生をはじめとする神奈川県総合リハビリテーションセンターの全スタッフによる数多くの優れた研究活動とそれらに裏打ちされた豊富な臨床経験から生み出された、脊髄損傷の「実践的技術書」である。

本書は6つの章から成っている。

第1章では急性期の治療方針について、主に中国労災病院の木下博先生が執筆しておられる。脊髄損傷患者の搬送に際しての注意点や、急性期の全身状態の管理のポイント、急性期における診察のコツ、そして骨傷に対する整形外科の治療方針について、先生の豊富な経験をもとに明快に述べておられる。第2章では、脊髄損傷によって生じる病態を、心理的問題や性機能障害に到るまで広範囲に取り上げ、それらに対する対策が非常に具体的に述べられている。第3章では、脊髄損傷患者の基本動作訓練やADL訓練の実践が、図・

写真を用いてわかりやすく解説されている。第4章では、車椅子・装具・自助具について解説されている。第5章では、小児の脊髄損傷が取り上げられており、成人の場合との相違が明らかにされていて大変参考になる。第6章では、社会復帰へ向けての計画やその際に利用される社会資源などについて具体的に述べてある。本書の第1・2章には脊髄損傷の Impairment に対する、第3・4章には Disability に対する、そして第6章には Handicap に対する対策が非常に具体的に記述されており、著者の先生方の脊髄損傷に対する理念が如実に現われている書といえよう。脊髄損傷のリハビリテーションに関係しているスタッフのみならず、第一線の医療機関において脊髄損傷患者を扱う医療スタッフにもぜひ読んでいただきたい書である。

（B5，頁222，写96，表24，1984，
¥4,800，〒300，医学書院刊）